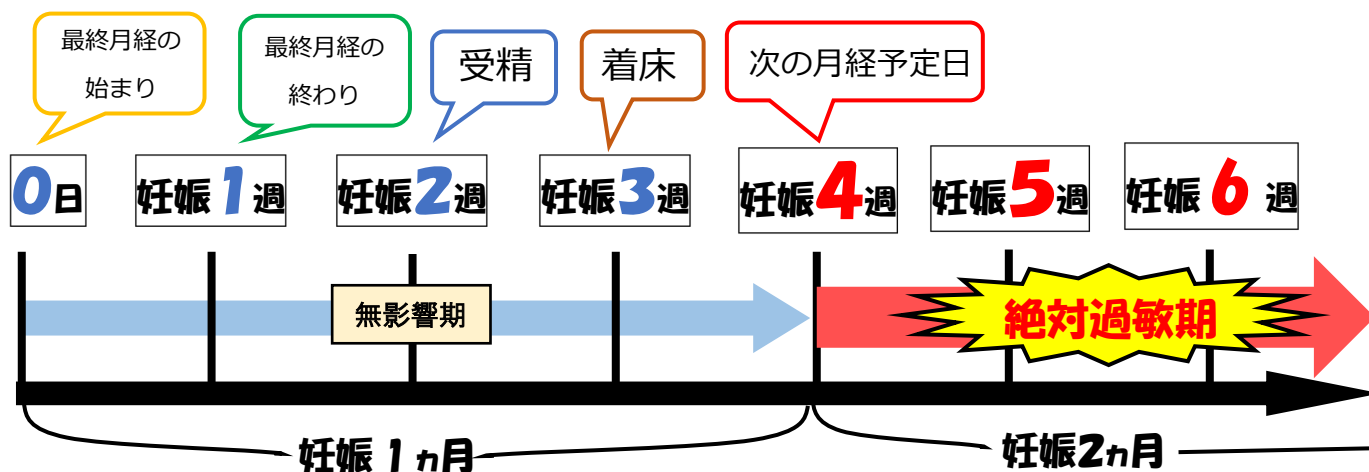


男子注目!

男性も将来のために
にしっかり覚えて
おきましょう。

妊娠と医薬品 ~将来のために~

妊娠の周期は、最終月経の始まった日を0周0日として数えていき、出産の予定日は40周0日です。妊娠周期によって、医薬品の服用がお腹の赤ちゃん(胎児)に大きく影響する時期があります。



無影響期 (～妊娠3週末)	胎児に奇形は起こらない。
絶対過敏期 (妊娠4～7週末)	医薬品の影響で胎児に奇形が起こりやすい 最も危険な時期!!!
相対過敏期 (妊娠8～15週末)	胎児の奇形にまだまだ注意が必要!
比較過敏期～潜在過敏期 (妊娠16週～出)	胎児に奇形は起きないが、成長に影響が出る。

困ったことに、一番危険な絶対過敏期(=妊娠4週から)は、本来次の生理が始まるはずの週なのです。計画的な妊娠でなければ、生理が遅れていると思って妊娠していることに気づかず、うっかり医薬品を飲んでしまうかも……。将来のためにしっかり覚えておきましょう。

健康やお薬などについて、気になることがある方は、相談薬局・出張相談会で薬剤師に気軽にお尋ねください。

《 出張相談会 保健室に学校薬剤師が来ます 》
ドラッグレター、医薬品や健康などについて、質問・相談がある人は保健室まで!
3月14日 12時30分～13時10分

作成・発行元 北陸大学薬学部 准教授(学校薬剤師) 大柳賀津夫
北陸大学薬学部薬学科5年生 村中佑晟・木山美佳